

新たな都立公園の整備と管理のあり方について（資料編）



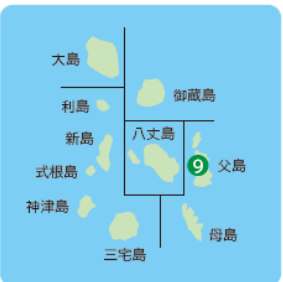
都立公園一覽

都立公園は計84箇所、
約2,065haが開園
(令和5年6月30日現在)

各公園の詳細はこちらから



【都立公園一覽(東京都建設局ホームページ)】



- | | | | | | | | | | |
|------------|------------|---------------|-----------|---------------|----------|--|------------|------------|------------|
| 公園 | 1 青山公園 | 2 赤塚公園 | 3 秋留台公園 | 4 井の頭恩賜公園 | 5 上野恩賜公園 | 6 宇喜田公園 | 7 浮間公園 | 8 大泉中央公園 | 9 大神山公園 |
| | 10 大島小松川公園 | 11 大戸緑地 | 12 尾久の原公園 | 13 小山内裏公園 | 14 小山田緑地 | 15 葛西臨海公園 | 16 亀戸中央公園 | 17 砧公園 | 18 木場公園 |
| | 19 小金井公園 | 20 駒沢オリンピック公園 | 21 小宮公園 | 22 桜ヶ丘公園 | 23 狭山公園 | 24 狭山・境緑道 | 25 猿江恩賜公園 | 26 汐入公園 | 27 潮風公園 |
| | 28 篠崎公園 | 29 芝公園 | 30 石神井公園 | 31 城北中央公園 | 32 浅間山公園 | 33 善福寺川緑地 | 34 善福寺公園 | 35 祖師谷公園 | 36 台場公園 |
| | 37 高井戸公園 | 38 滝山公園 | 39 玉川上水緑道 | 40 東京臨海広域防災公園 | 41 舎人公園 | 42 戸山公園 | 43 中川公園 | 44 中藤公園 | 45 長沼公園 |
| | 46 野川公園 | 47 野山北・六道山公園 | 48 八国山緑地 | 49 東綾瀬公園 | 50 東白鬚公園 | 51 東伏見公園 | 52 東村山中央公園 | 53 東大和公園 | 54 東大和南公園 |
| | 55 光が丘公園 | 56 日比谷公園 | 57 平山城址公園 | 58 府中の森公園 | 59 水元公園 | 60 武蔵国分寺公園 | 61 武蔵野公園 | 62 武蔵野中央公園 | 63 武蔵野の森公園 |
| | 64 明治公園 | 65 夢の島公園 | 66 横網町公園 | 67 代々木公園 | 68 陵南公園 | 69 林試の森公園 | 70 蘆花恒春園 | 71 六仙公園 | 72 和田堀公園 |
| | 73 練馬城址公園 | | | | | | | | |
| 庭園 | 1 旧岩崎邸庭園 | 2 旧芝離宮恩賜庭園 | 3 旧古河庭園 | 4 清澄庭園 | 5 小石川後楽園 | 6 殿ヶ谷戸庭園 | 7 浜離宮恩賜庭園 | 8 向島百花園 | 9 六義園 |
| その他 | 1 井の頭自然文化園 | 2 恩賜上野動物園 | 3 葛西臨海水族園 | 4 多摩動物公園 | 5 神代植物公園 | ※①井の頭自然文化園、②恩賜上野動物園、③葛西臨海水族園は公園内の施設のため、公園数には含まない | | | |

1. 東京都の総合計画（「未来の東京」戦略）	4
2. 都立公園を取り巻く社会状況	6
3. 都政モニターアンケート	19
4. 国の公園施策の動向	22
5. これまでの都立公園の取組	27

1. 東京都の総合計画（「未来の東京」戦略）

1. 東京都の総合計画（「未来の東京」戦略）

「未来の東京」戦略（令和3年3月策定）

令和3年3月
「未来の東京」戦略は
こちらからご覧ください



<戦略を展開するスタンス>

「サステナブル・リカバリー（持続可能な回復）」の実現

課題の根源まで踏み込んだ「構造改革」を強力に推進

<4つの基本戦略>

- ①バックキャストの視点で将来を展望する
- ②民間企業等、多様な主体と協働して政策を推し進める
- ③デジタルトランスフォーメーション（DX）でスマート東京を実現
- ④時代や状況の変化に弾力的に対応「アジャイル」

■ 目指す2040年代の東京の姿「ビジョン」

■ 2030年に向けた「戦略」

■ 戦略実行のための「推進プロジェクト」

- 戦略0 感染症に打ち克つ戦略
- 戦略1 子供の笑顔のための戦略
- 戦略2 子供の「伸びる・育つ」応援戦略
- 戦略3 女性の活躍推進戦略
- 戦略4 長寿（Chōju）社会実現戦略
- 戦略5 誰もが輝く働き方実現戦略
- 戦略6 ダイバーシティ・共生社会戦略
- 戦略7 「住まい」と「地域」を大切にする戦略
- 戦略8 安全・安心なまちづくり戦略
- 戦略9 都市の機能をさらに高める戦略
- 戦略10 スマート東京・TOKYO Data Highway戦略

- 戦略11 スタートアップ都市・東京戦略
- 戦略12 稼ぐ東京・イノベーション戦略
- 戦略13 水と緑溢れる東京戦略
- 戦略14 ゼロエミッション東京戦略
- 戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略
- 戦略16 スポーツフィールド東京戦略
- 戦略17 多摩・島しょ振興戦略
- 戦略18 オールジャパン連携戦略
- 戦略19 オリンピック・パラリンピックレガシー戦略
- 戦略20 都政の構造改革戦略

- 政策面からの視点である3C（Community、Children、Chōju）を、戦略の核に据える

「3か年のアクションプラン」

「成長」と「成熟」が両立した未来の東京

セーフシティ

ダイバーシティ

スマートシティ

「『未来の東京』戦略」では、「時代や状況の変化に弾力的に対応『アジャイル』」を基本戦略とし、取組の進捗や社会環境の変化により、更に良い方法やより効率的な方法が見つかった場合には内容を見直すこととしている

「未来の東京」戦略 version up 2022（令和4年2月策定） における、政策をバージョンアップする6つの切り口

- ①安全安心 都民の命と生活を守る基盤「危機管理」
- ②共生社会 バリアフリー「段差のない社会」
- ③グリーン&デジタル 自然と共生した持続可能な都市
- ④グローバル 世界から選ばれる金融・経済・文化都市
- ⑤チルドレンファースト 子供の目線からの政策展開
- ⑥都政の構造改革 シン・トセイの加速

「未来の東京」戦略 version up 2023（令和5年1月策定） における、政策をバージョンアップする主な分野

- ①成長の源泉となる「人」 都市の発展に不可欠な推進力となる、「人」の力を高め、「人」の力を引き出す
- ②世界から選ばれ、世界をリードする都市 東京の魅力を磨き上げ、新たな成長の芽を育て、世界から選ばれる
- ③安全・安心でサステナブルな東京 全ての都市活動の基盤となる「安全・安心」を確保し、持続可能な未来を実現する
- ④従来の枠組みを越えた取組 成長の障壁となる社会構造・ルールを改革

2. 都立公園を取り巻く社会状況

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■ みどりの状況

■ 自然環境と生物多様性

■ 気象状況の変化

■ 風水害による影響

■ 地震による影響

■ 歴史文化・観光

■ 都民の人口構成

■ 健康維持と運動の習慣

■ コミュニティの醸成・居場所づくり

■ コロナ禍を経た意識の変化

■ 国際的な動向

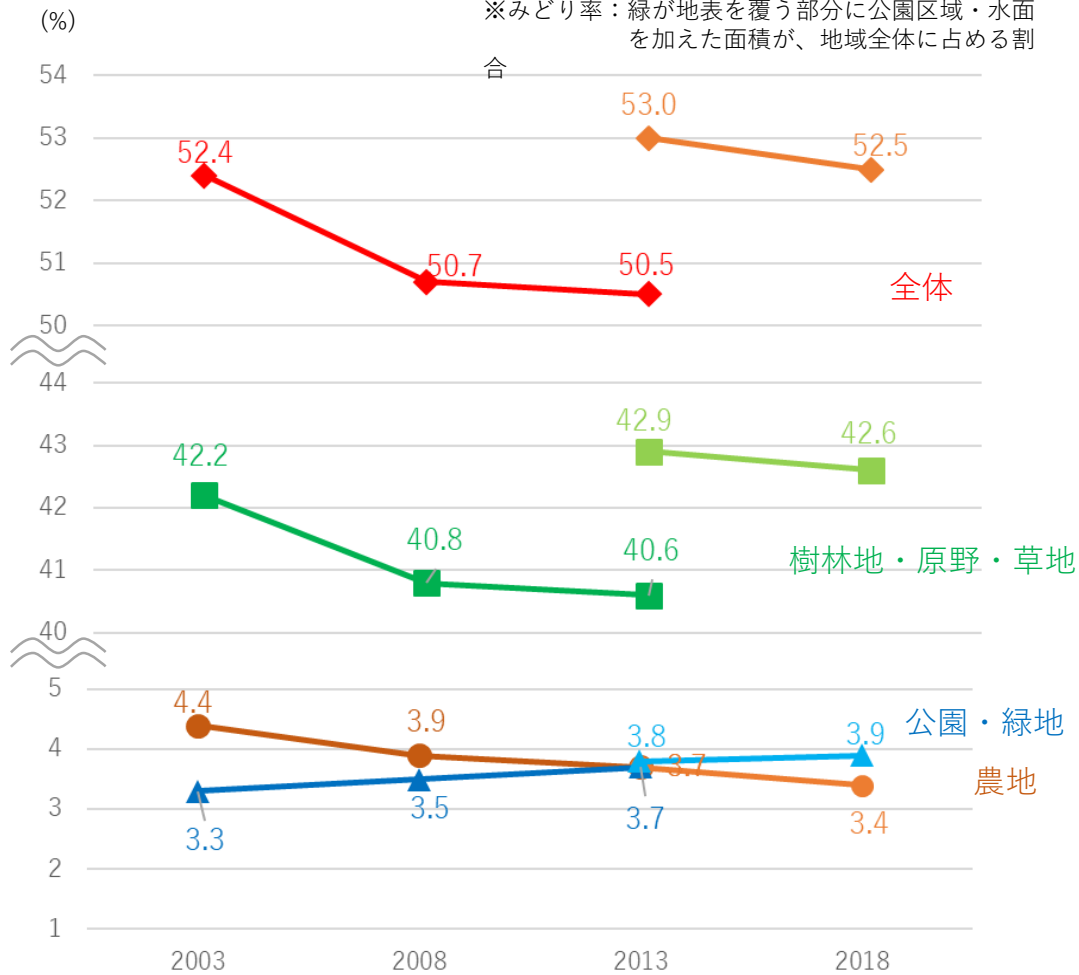
2. 都立公園を取り巻く社会状況

■みどりの状況

- 東京のみどり率は減少傾向にあり、樹林地や農地の減少が顕著
- 公園は増えているが、世界の大都市に比べて少ない状況

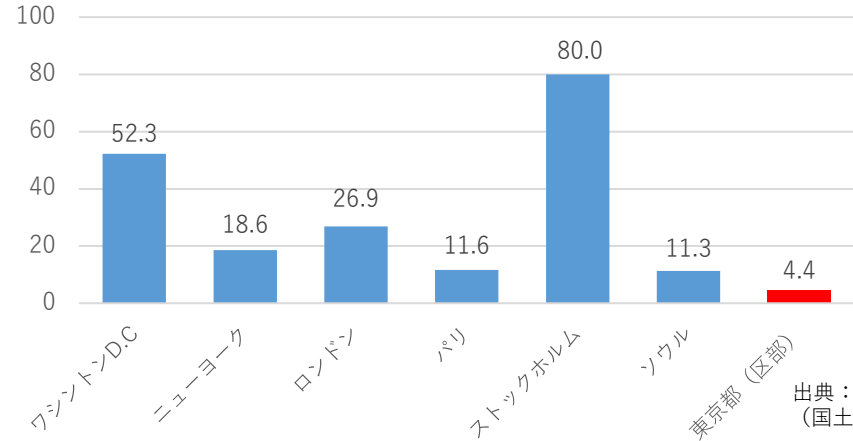
東京のみどり率※推移

※みどり率：緑が地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が、地域全体に占める割合



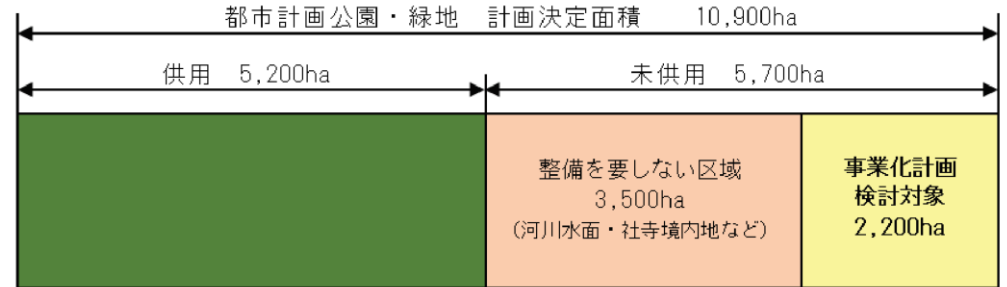
出典：みどり率調査の結果（東京都 2018年）を基に作成

世界主要都市の1人あたりの公園面積



出典：都市公園等整備の現況等（国土交通省 2020年）を基に作成

都市計画公園・緑地の供用面積・未供用面積



出典：都市計画公園・緑地の整備方針（東京都 2020年）

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■自然環境と生物多様性

- 山地から低地、島嶼まで多様な生態系が存在し、様々な課題に直面
- 生物多様性に対する理解や認識は不十分

東京の地形区分と自然環境



野山北・六道山公園



小宮公園

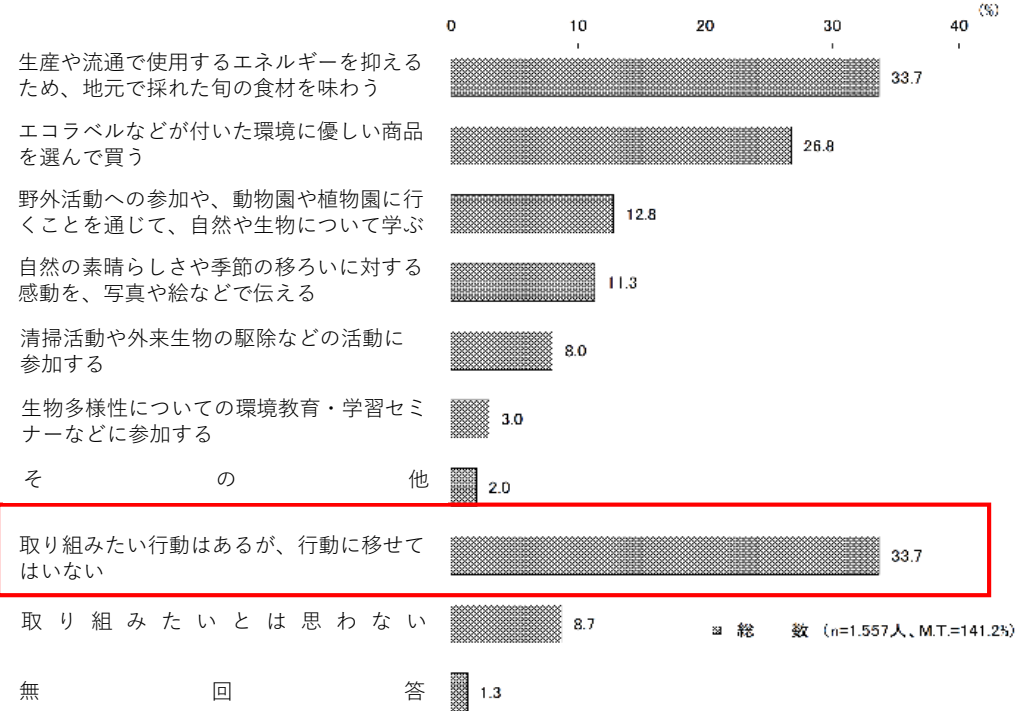


井の頭恩賜公園



葛西臨海公園

生物多様性保全活動への取組状況



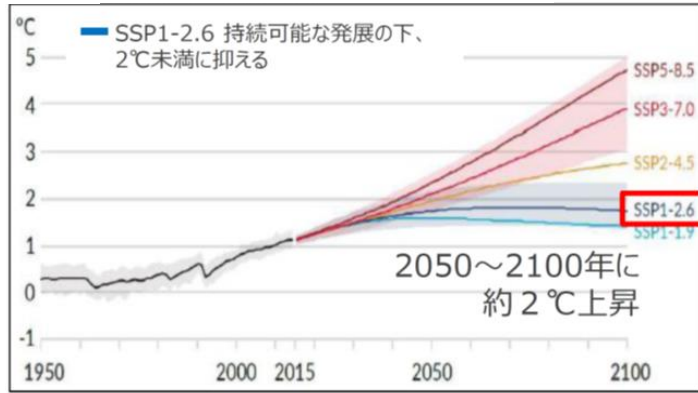
出典：生物多様性に関する世論調査（内閣府 2022年）を基に作成

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■ 気象状況の変化

- 温室効果ガスの増加に伴い、世界の平均気温は上昇と予測
- 都市化によるヒートアイランド現象が進行

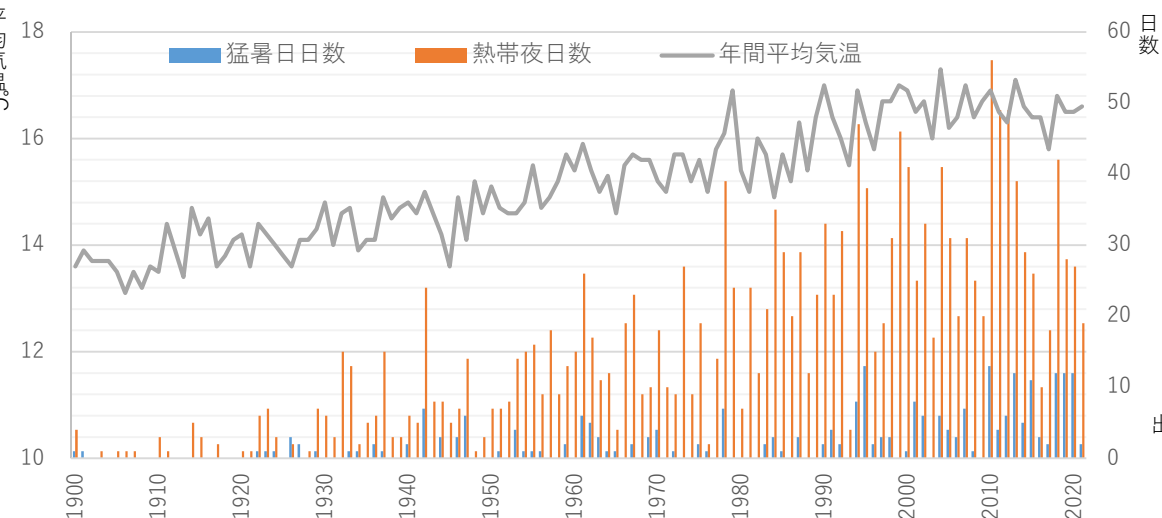
将来の世界平均気温上昇予測



(出典) IPCC「IPCC第6次評価報告書第1作業部会報告書」を基に作成

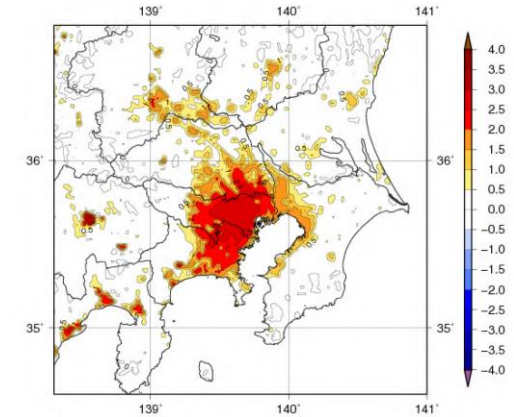
出典：IPCC「IPCC第6次評価報告書第1作業部会報告書」を基に作成
「未来の東京」の実現に向けた重点政策方針2022（東京都 2022年）

東京の年間平均気温と猛暑日・熱帯夜日数



出典：東京の平均気温（気象庁 2021年）
大都市における熱帯夜日数の長期変化傾向（気象庁 2021年）
大都市における猛暑日日数の長期変化傾向（気象庁 2021年）

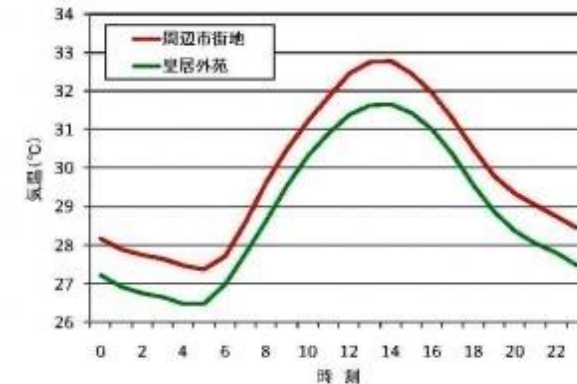
関東地方におけるヒートアイランド現象



2017年8月の5時（夜間）の都市化の影響による平均気温の変化（°C）の分布

出典：ヒートアイランド監視報告（気象庁 2017年）

公園緑地がもつ冷涼機能

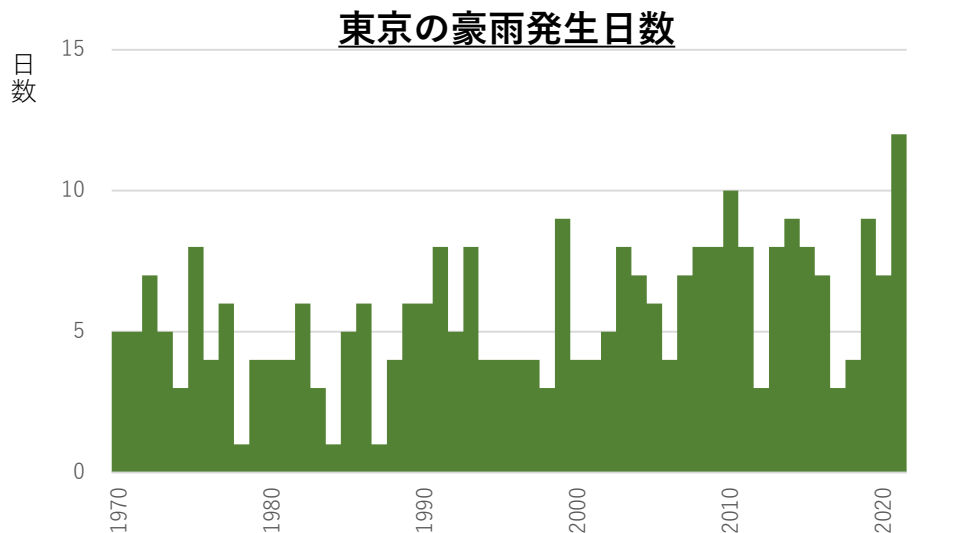


出典：皇居・皇居外苑のクールアイランド効果の観測結果について（お知らせ）（環境省 2008年）

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■風水害による影響

- 集中豪雨の頻発や台風の大型化により、浸水被害の甚大化が予測
- がけ崩れ等の土砂災害や倒木等の強風被害が頻発



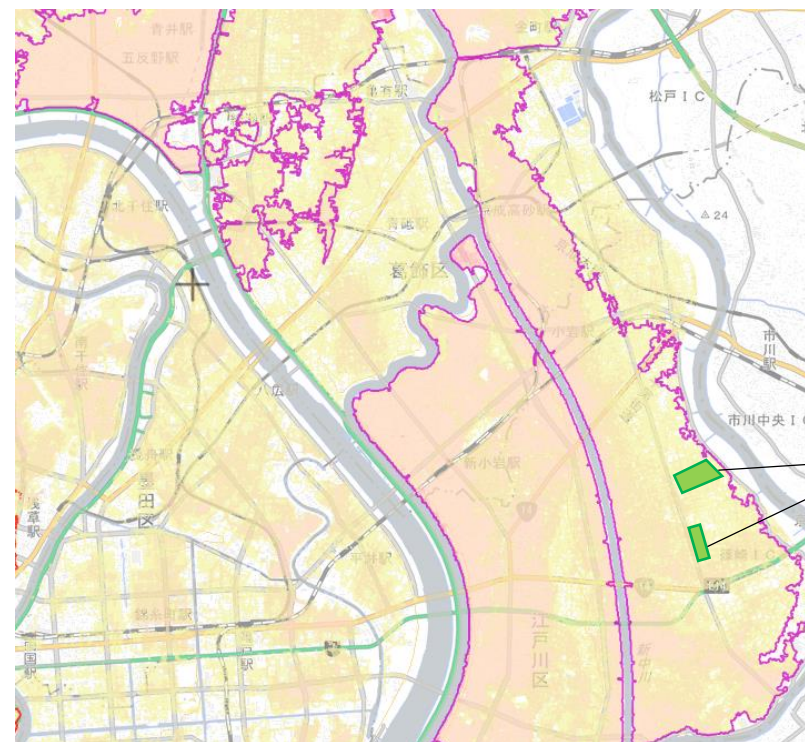
出典：大都市における日降水量50mm以上の長期変化傾向（気象庁 2021）

都市における内水氾濫※



出典：下水道浸水対策計画2022（東京都 2022）

浸水予想



篠崎公園

<浸水深の凡例>

- 0.1m~0.5m 未満
- 0.5m~1.0m 未満
- 1.0m~3.0m 未満
- 3.0m~5.0m 未満
- 5.0m~
- 河川が氾濫した場合の浸水区域

想定最大規模降雨（1時間最大雨量 153mm、総雨量 690mm）を想定

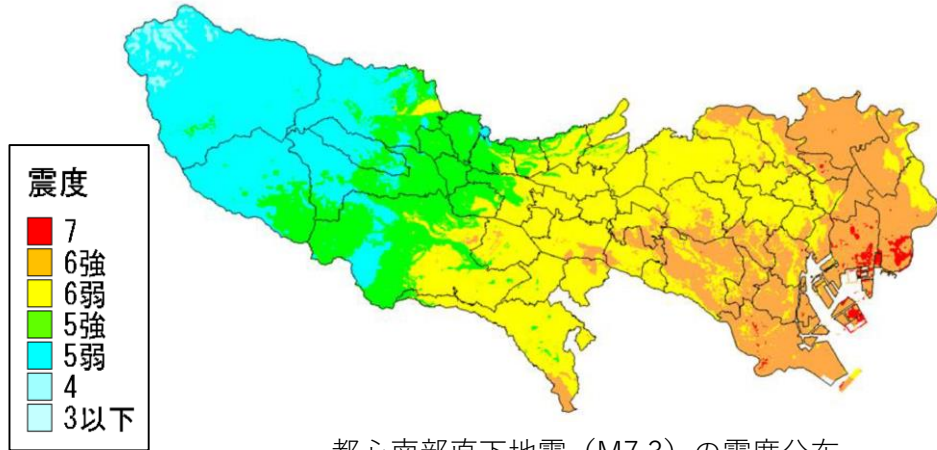
出典：浸水予想区域図（東京都 2021）を基に作成

2. 都立公園を取り巻く社会状況

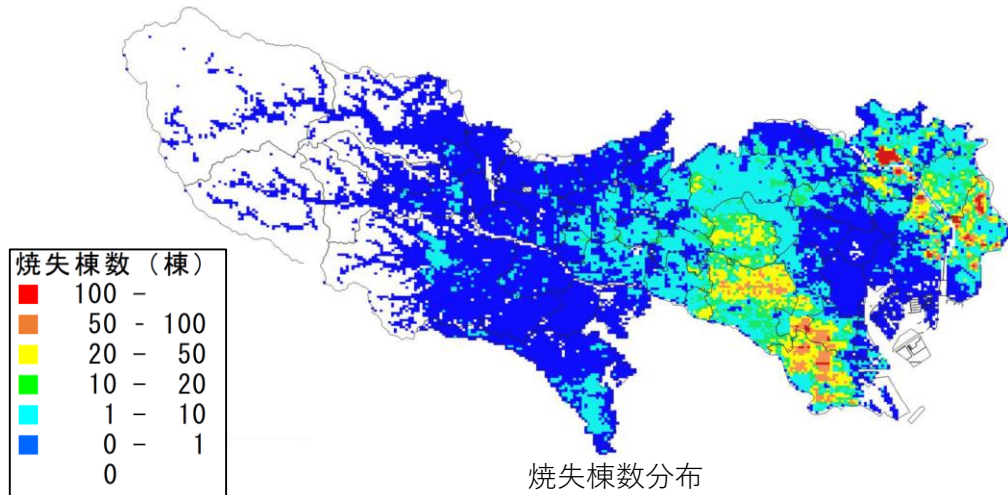
■地震による影響

- 東京で大規模地震が発生すると、甚大な被害の発生が想定
- 一人ひとりの備えや地域での取組等は横ばいか低下の傾向

東京における被害想定（都心南部直下地震）



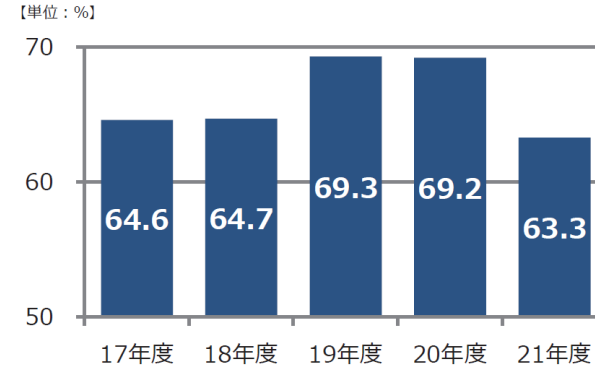
都心南部直下地震（M7.3）の震度分布



焼失棟数分布

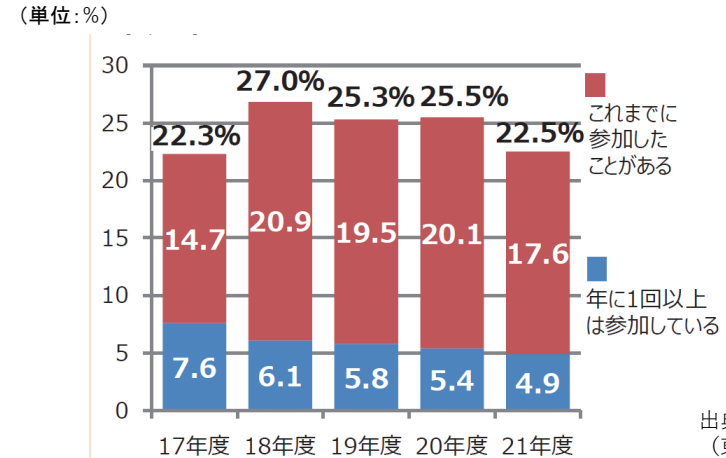
出典：首都直下地震等による東京の被害想定報告書（東京都 2022年）

避難所又は避難場所を知っている人の割合



出典：東京都防災プラン進捗レポート（東京都 2022年）

地域の防災訓練に参加したことがある人の割合



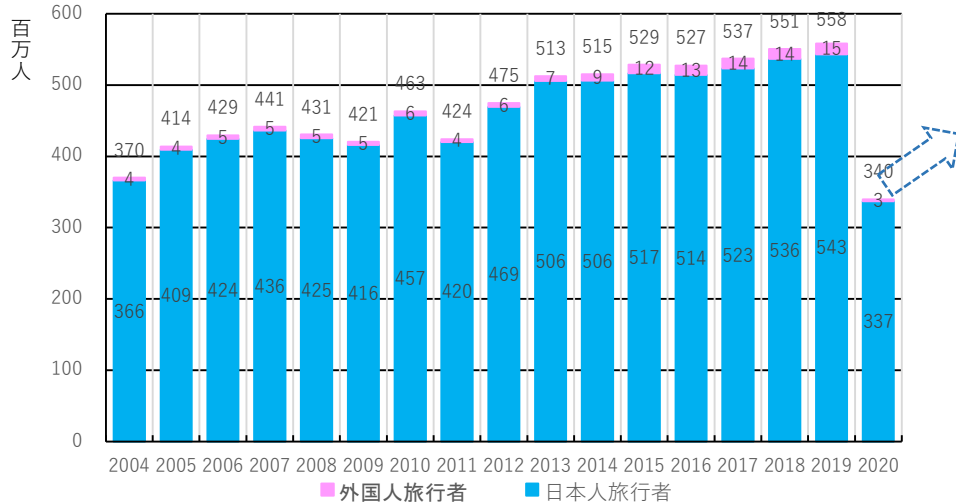
出典：東京都防災プラン進捗レポート（東京都 2022年）

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■歴史文化・観光

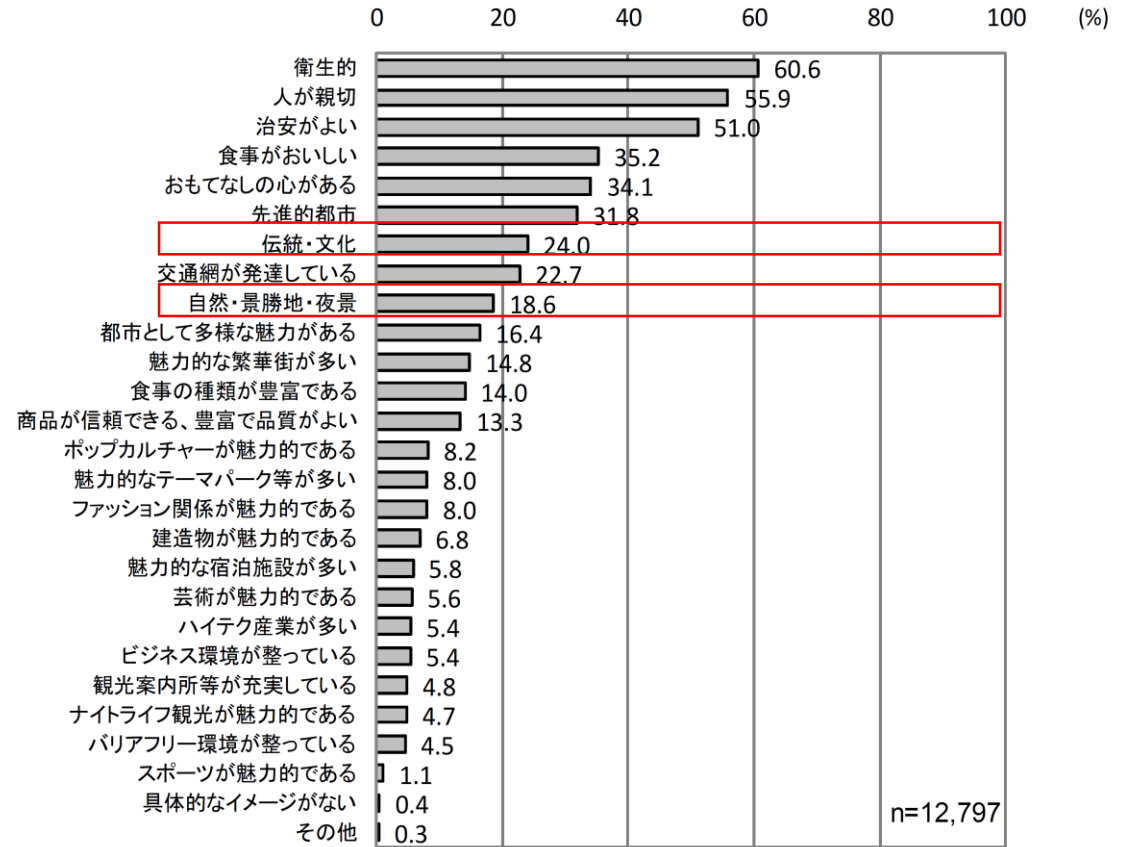
- 国外における海外旅行意向は高く、東京に強い関心
- 自然や文化・暮らしの体験への志向の高まり

訪都旅行者数



出典：東京都観光客数等実態調査（東京都 2020年）を基に作成

訪都外国人旅行者が考える東京の魅力



出典：平成31年・令和元年 国・地域別外国人旅行者行動特性調査報告書（東京都 2020年）を基に作成

世界で最も魅力的な都市のランキング (Readers' Choice Awards 2021)

米国版ランキング
The Best Cities in the World
(Best Big Cities 部門) (米国を除く)

- 1位 (6位) **東京 (日本)**
- 2位 - 大阪 (日本)
- 3位 (1位) 京都 (日本)
- 4位 (3位) シンガポール
- 5位 - イスタンブール (トルコ)
- 6位 - メリダ (メキシコ)
- 7位 - マラケシュ (モロッコ)
- 8位 (7位) ポルト (ポルトガル)
- 9位 - バンコク (タイ)
- 10位 - ソウル (韓国)

英国版ランキング
Top 20 CITIES in the World
(英国を除く)

- 1位 (15位) **東京 (日本)**
- 2位 - 大阪 (日本)
- 3位 (4位) 京都 (日本)
- 4位 (9位) シンガポール
- 5位 (1位) サン・ミゲル・デ・アジェンデ (メキシコ)
- 6位 - イスタンブール (トルコ)
- 7位 (3位) メリダ (メキシコ)
- 8位 - マラケシュ (モロッコ)
- 9位 (18位) ポルト (ポルトガル)
- 10位 - アспен (アメリカ合衆国)

※ () 内は 2020 年の順位、- は昨年ランク外

出典：Condé Nast Traveler (コンデ・ナスト・トラベラー) 誌

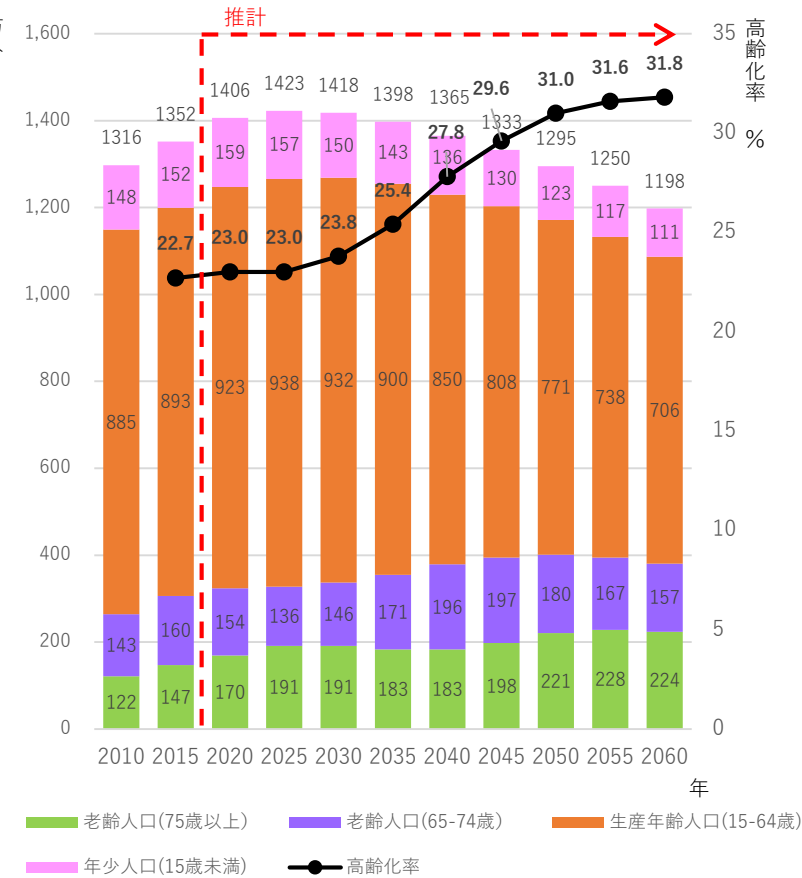
出典：PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン (東京都 2022年)

2. 都立公園を取り巻く社会状況

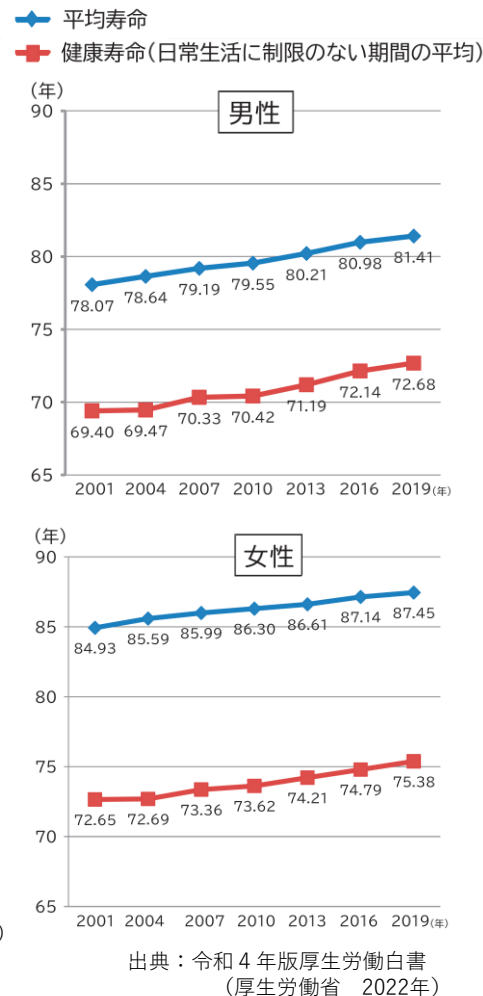
■都民の人口構成

- 少子高齢化が進み、外国人人口は増加し国籍も多様化
- 2020大会を契機に共生社会の実感が進展

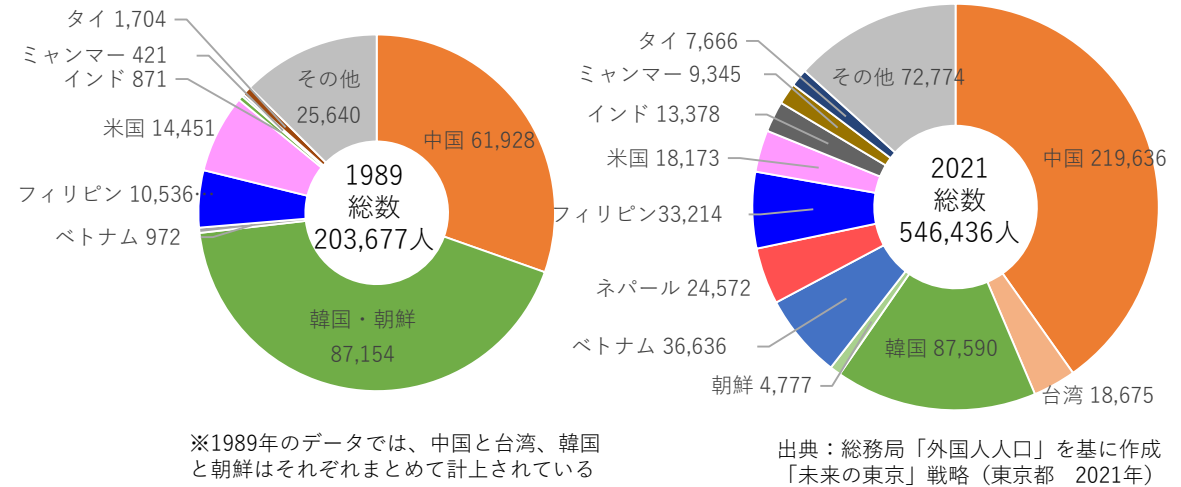
東京都の年齢階級別人口の推計



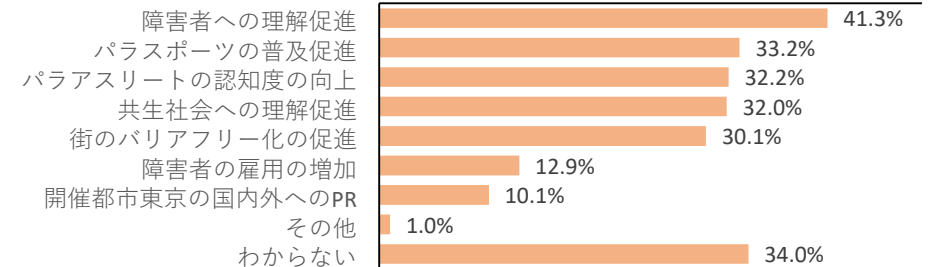
平均寿命と健康寿命



東京都の在住外国人数と国籍構成の変化



東京2020パラリンピックによって得られた効果



出典：「東京都層間人口の予測」（令和2年3月）（東京都総務局）、「国勢調査」（総務省）、等より作成 「未来の東京」戦略附属資料（東京都 2021年）

備考：1. 2045年以降は、東京都政策企画局による推計
2. 四捨五入や、実績値には年齢不詳を含むことにより、内訳の合計が総数と一致しない場合がある。

出典：令和4年版厚生労働白書（厚生労働省 2022年）

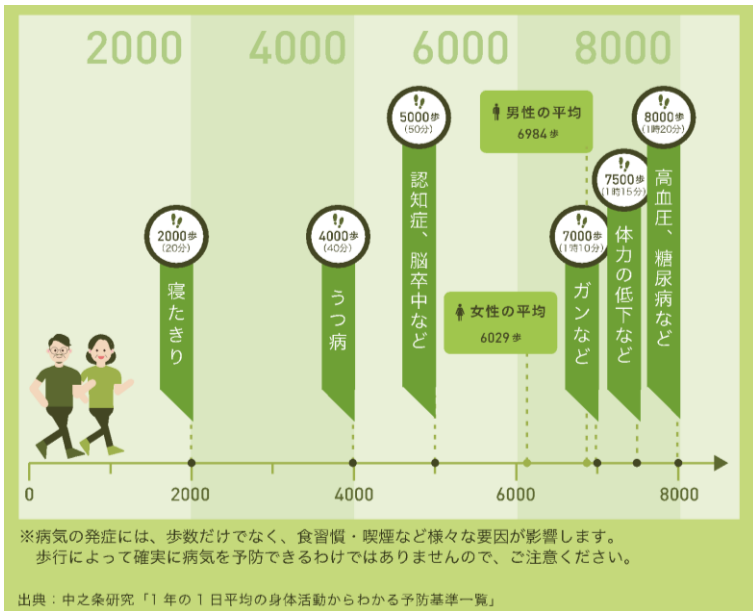
出典：東京2020パラリンピック競技大会後の都民意識調査結果（東京都 2022年）を基に作成

2. 都立公園を取り巻く社会状況

健康維持と運動の習慣

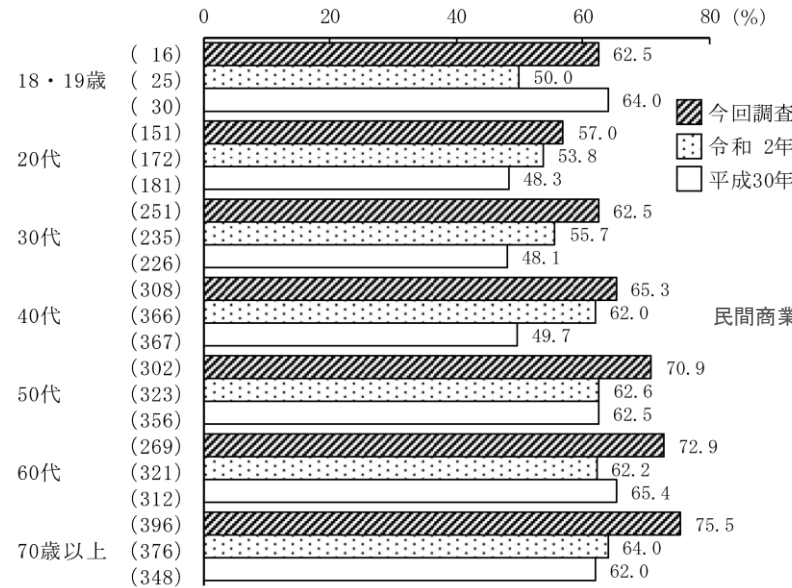
- スポーツに親しむ人は増加傾向
- ウォーキングやランニングなど気軽に取り組みやすい運動が中心

1日に歩く歩数と予防に効果がある病気



出典：スポーツ庁HP

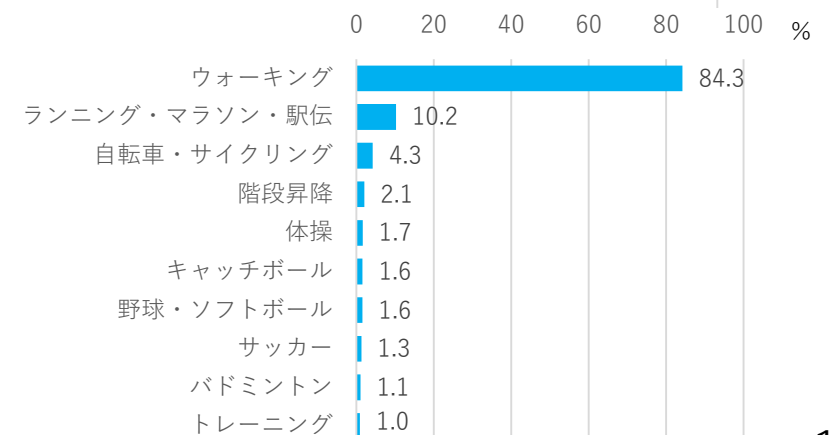
運動・スポーツ実施率



運動・スポーツの実施場所



公園で行っている運動・スポーツ



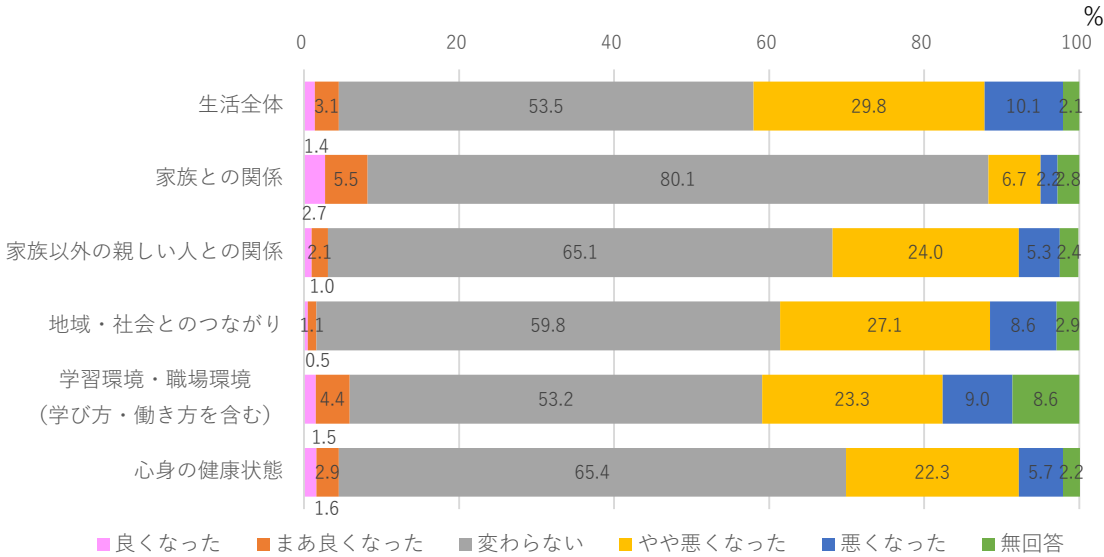
出典：スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁 2022年）を基に作成

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■コミュニティの醸成・居場所づくり

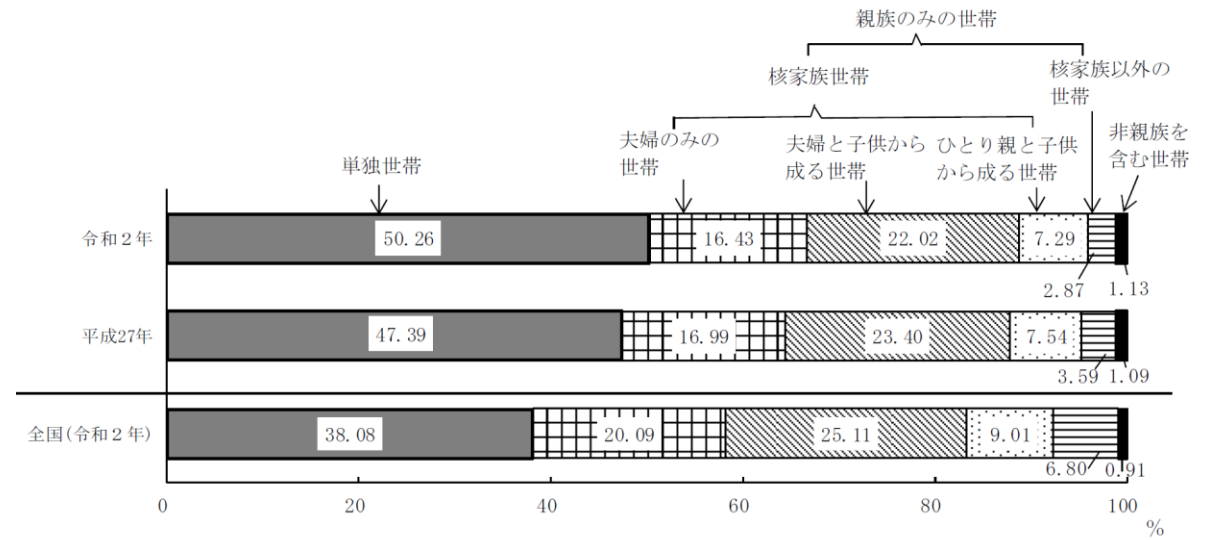
- 日常生活における地域や社会、人とのつながりが悪化
- 放課後の居場所等、心地よく過ごせる居場所が不足

コロナ禍における日常生活の変化



出典：人々のつながりに関する基礎調査（内閣官房 2022年）

一般世帯の家族類型別構成比



出典：令和2年度国勢調査人口等基本修景結果概要（東京都 2022年）

子供シンポジウム「ティーンズ・アクションTOKYO 2021」提案



<提案>

- 既に存在する空間（公園や神社、お寺、教会など）を放課後の居場所に活用できないか
- 公園や神社、お寺、教会を活用するには、「安心安全に過ごせる建物があること」、「Wi-Fi環境が整備されていること」、「お寺や神社、教会に対するイメージを変えること」が必要
- 東京都のサポートがあれば、中高生は今よりも良い「放課後の居場所」を見つけられるのではないか

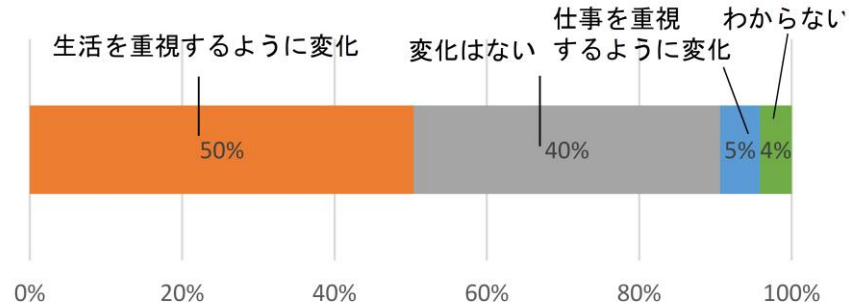
2021年11月に開催されたこどもシンポジウム

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■コロナ禍を経た意識の変化

- ワークライフバランスへの意識が生活重視に変化
- 身近な屋外空間へのニーズが高まり、多様化

ワークライフバランスへの意識変化



出典：新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査（内閣府 2020年）

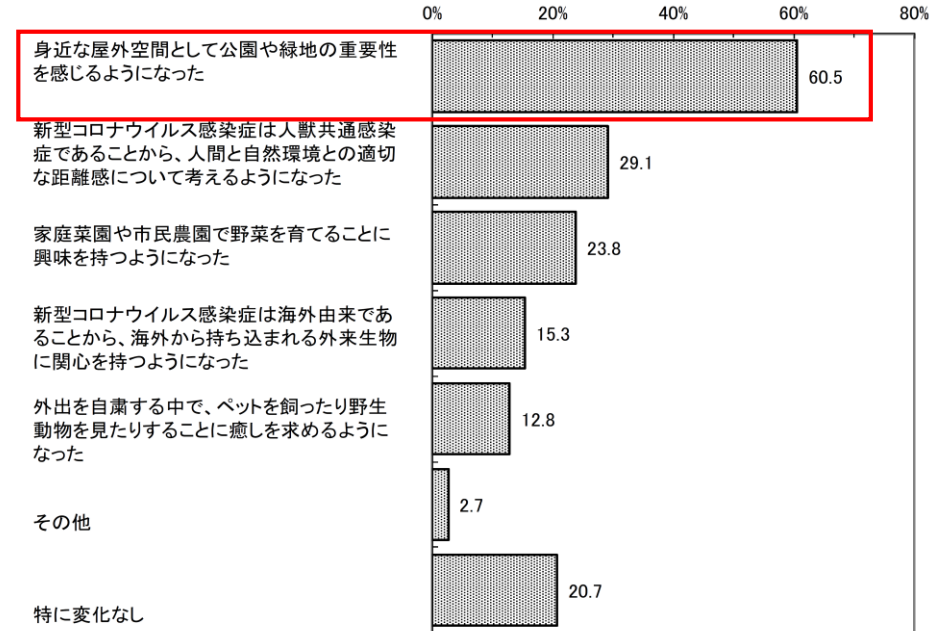
公園利用者の比較



3月の公園利用者の比較（狭山公園、武蔵国分寺公園、野川公園の平均）

出典：新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（国土交通省 2020年）

コロナの感染拡大に伴う自然環境に関する意識の変化



出典：令和2年度インターネット都政モニターアンケート「生物多様性について」（東京都 2020年）を基に作成

2. 都立公園を取り巻く社会状況

■国際的な動向

- 持続可能な世界の実現に向けて、自治体レベルでの取組も期待されており、SDGsの目線に立った事業の推進が重要
- 地球温暖化が進行しており、迅速な対策が必要
- 人と動物の健康、健全な環境の一体性を考慮したワンヘルス・アプローチが重要

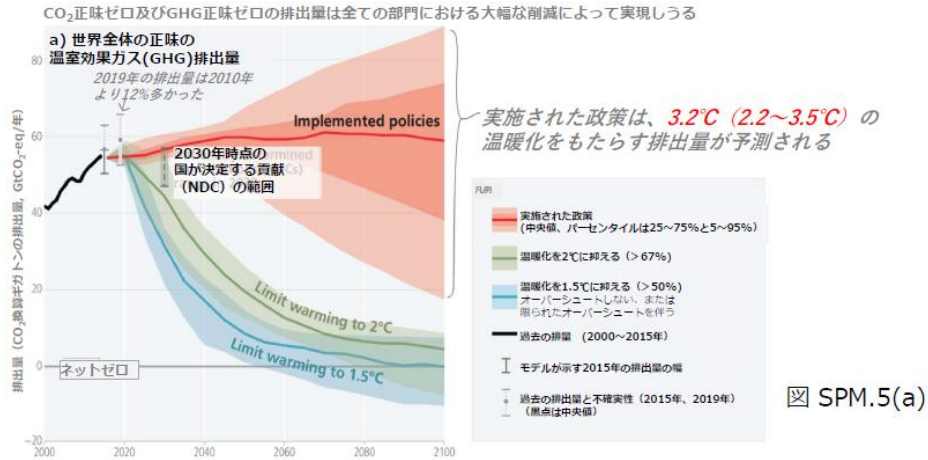
SDGs (持続可能な開発目標)



出典：「未来の東京」戦略（東京都 2021年）

2015年9月の国連サミットで採択された2030年を年限とする国際目標であり、持続可能な世界を実現するための17のゴールから構成され、発展途上国のみならず、先進国を含む全ての国々の共通目標となっている。

IPCCによる第6次評価報告書統合報告書



出典：AR6 統合報告書の政策決定者向け要約 (SPM) の概要（環境省 2023年）

2020年までの10年間で世界の平均気温は1.1度上昇しており、人為的な気候変動は自然と人々に対し広範な悪影響と損失と損害をもたらしていることが指摘されている。

温暖化を1.5°C又は2°Cに抑えるには、この10年間に全ての部門において急速かつ大幅で、ほとんどの場合即時の温室効果ガスの排出削減が必要である。

ワンヘルス・アプローチ



出典：東京都生物多様性地域戦略（東京都 2023年）

「ワンヘルス」は、人の健康は家畜を含む動物の健康や健全な自然環境と一体であるという考え方である。

人獣共通感染症を減らし人の健康を守るため、人、動物、環境の衛生に関する分野横断的な課題に対し、関係者が連携してその解決に向けて取り組む「ワンヘルス・アプローチ」が注目されている。

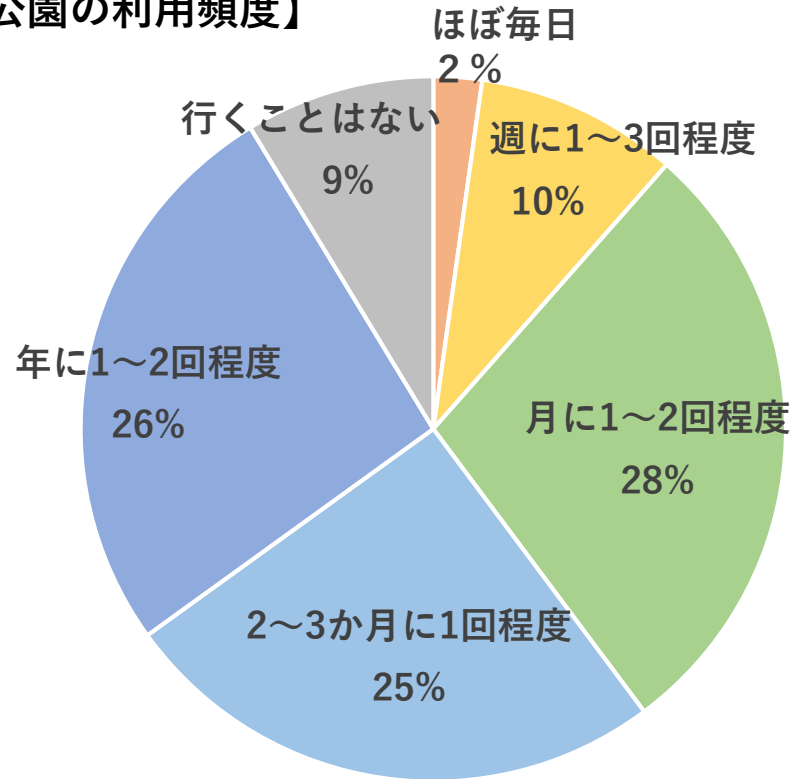
3. 都政モニターアンケート

3. 都政モニターアンケート

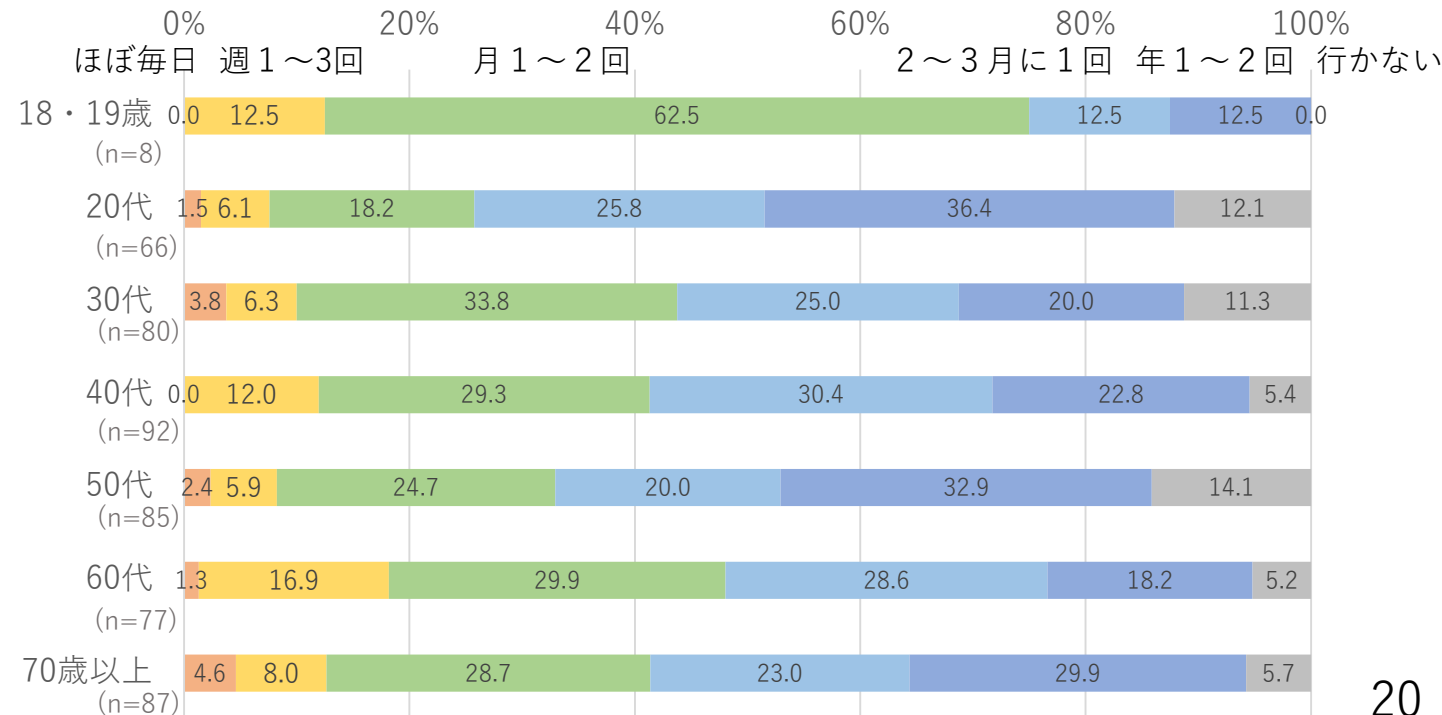
令和4年度第1回インターネット都政モニターアンケート

- テーマ：都立公園及び霊園について
- 設問数：全22問…うち、都立公園について（11問）・都立公園の利用目的 ・都立公園に期待する役割 等
- 期 間：令和4年6月22日～6月28日
- 方 法：インターネットを通じ、モニターがアンケート専用ホームページから回答を入力
- 回答数：495人 / 都政モニター500人

【都立公園の利用頻度】



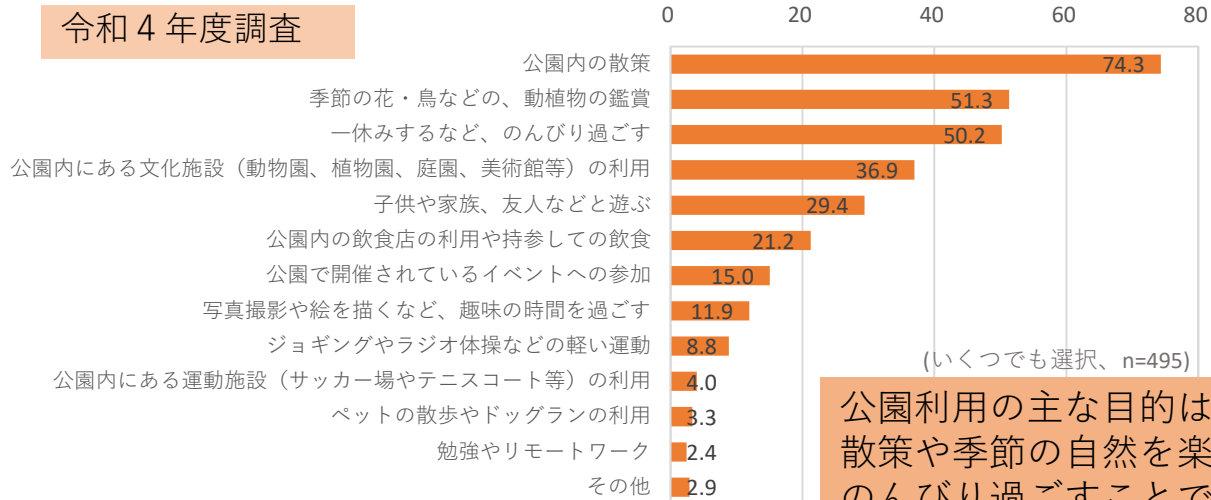
年代別状況



3. 都政モニターアンケート

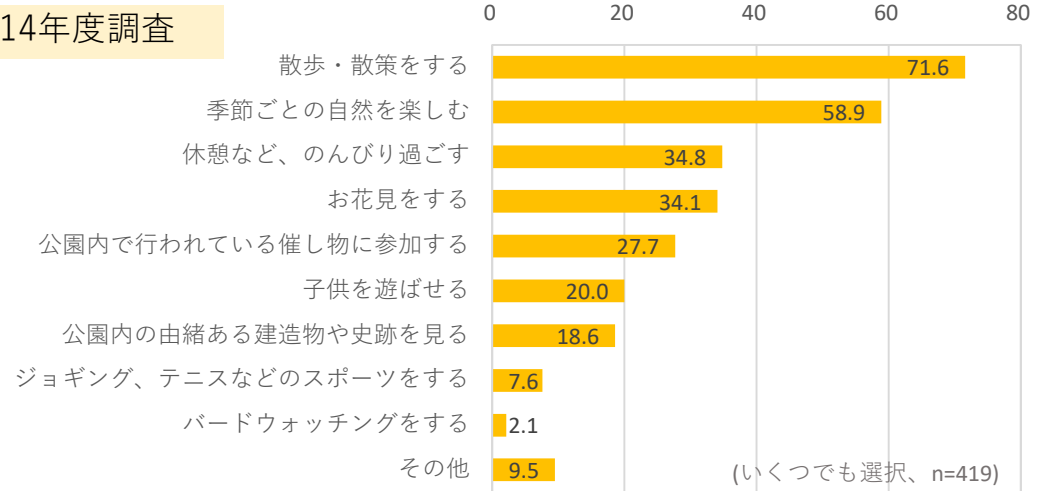
【都立公園を利用する目的】

令和4年度調査



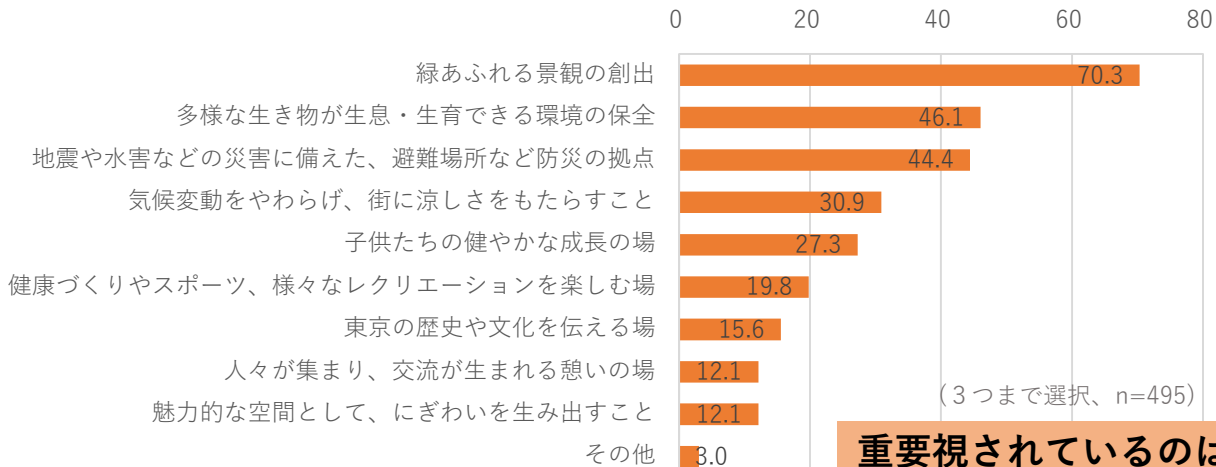
公園利用の主な目的は散策や季節の自然を楽しみ、のんびり過ごすことで、20年前と同じ

平成14年度調査



【都立公園に期待する役割】

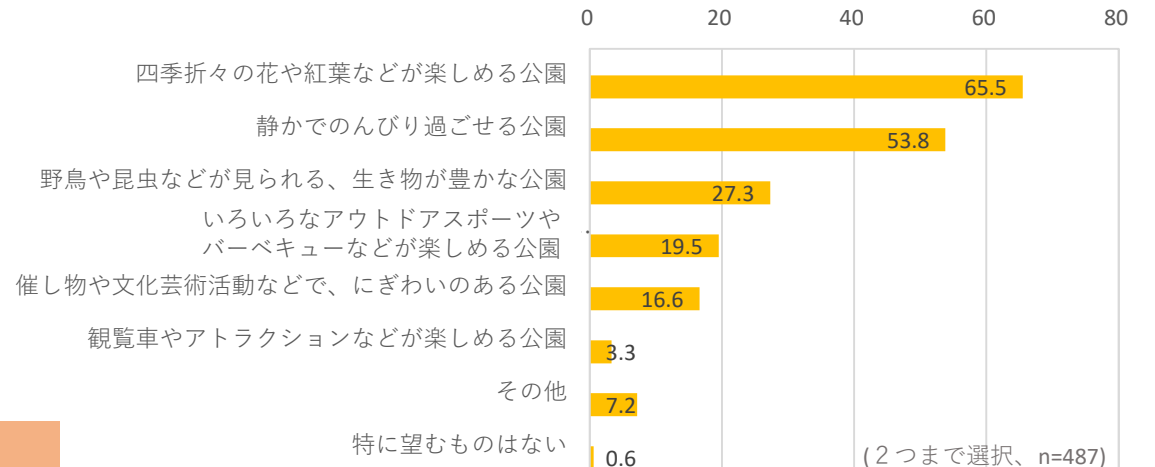
令和4年度調査



重要視されているのは、「緑」「生き物」「防災」

平成14年度調査

※「望ましい公園像」として質問



4. 国の公園施策の動向

4. 国の公園施策の動向

○新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会（2016年10月）①

新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会 最終とりまとめ 概要

1. 都市を取り巻く社会状況 ○少子高齢化と人口減少 ○都市化の進展と国民の環境問題等への関心の高まり ○地方の活性化と大都市のグローバル化
○社会資本の整備と老朽化の進行 ○財政面、人員面の制約の深刻化 ○国民の価値観の多様化

2. 緑とオープンスペースの状況

- 都市公園ストックの一定の蓄積（10万箇所、12万ha）
- 施設の老朽化と計画的かつ適切な維持管理
- 財政制約が深刻化する中での戦略的なストックマネジメント 等

3. 今後の都市の方向性

- 集約型都市構造化、都市と緑・農の共生が実現された都市
- 大規模地震等の災害に対してレジリエントな都市
- グローバルな都市、水や緑あふれ、歴史・文化が薫る美しいまち 等

新たな時代の都市をつくる緑とオープンスペースの基本的考え方

緑とオープンスペースの政策は 『新たなステージ』 へ移行すべき

緑とオープンスペースの多機能性の再認識と都市の特性に応じた発揮

社会が成熟化し、市民の価値観も多様化する中、都市基盤も一定程度整備されたステージにおいて、緑とオープンスペース政策は、
緑とオープンスペースが持つ**多機能性を都市のため、地域のため、市民のために発揮**すべく、その**ポテンシャルを最大限発揮させるための政策**へ移行すべき

【緑とオープンスペースの多機能性の発揮により実現できる都市像の例】

- 集約型都市構造化が課題となっている都市において、**都市の再構築にあわせた緑とオープンスペースの再構築**により、**緑豊かでゆとりある都市生活を実現**
- 国際競争力強化が課題となっている都市において、**都市のブランドとなる緑とオープンスペース**が、**生物多様性に富んだ美しく風格ある都市を形成**
- 地方創生が課題となっている都市において、**地域の資源を活かした個性豊かな緑とオープンスペース**が、**個性と活力のある都市づくりを実現**
- 地域コミュニティの希薄化が課題となっている都市において、**地域住民が自律的に運営する緑とオープンスペース**が、**やすらぎを実感できる暮らしを実現**

新たなステージで
重視すべき観点

ストック効果をより高める

民との連携を加速する

都市公園を一層柔軟に
使いこなす

パラダイムのシフト

- 整備、面積の拡大を重視
- 都市公園の中だけでの発想

- 行政主体の整備、維持管理

- 硬直的な都市公園の管理
- 維持管理の延長での公園運営

- 使うこと、活かすことを重視
- 都市全体、まちづくり全体の視野での発想

- 市民やNPO等の主体的な活動を支援
- 民間施設との積極的な連携

- 地域との合意に基づく弾力的な運用
- まちづくりの一環としてのマネジメント

出典：都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会 最終とりまとめ（概要）

（国土交通省 2016年）

4. 国の公園施策の動向

○新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会（2016年10月）②

新たなステージに向けた重点的な戦略

1. 緑とオープンスペースによる都市のリノベーションの推進

緑とオープンスペースの、都市をより美しく、暮らしやすく再構築できる力を最大限発揮するための以下の施策を実施し、都市のリノベーションを推進

(1) 緑の基本計画等による戦略的な都市再構築の推進

多様な生物を育み、良好な都市環境を形成する根幹となる緑とオープンスペースを基軸として集約型都市構造化を進める方針など、リノベーション戦略の方針を緑の基本計画で整理し、計画的に推進

(2) 民の広場空間等との連携強化による緑の多価値化

民の広場空間等との連携を強化し、温暖化対策、生物多様性の確保、防災性の向上等、緑の多面的な価値を発揮

(施策例) ・良質な広場空間等の公共的な価値の適正な評価の検討
・広場空間の防災性向上等への公的な支援

(3) 都市公園の配置と機能の再編等による都市の活性化

地域に応じた都市公園の配置と機能の再編等を戦略的に進め、都市を活性化

(施策例) ・都市の活性化、機能向上を目的とした戦略的な都市公園の再編

2. より柔軟に都市公園を使いこなすためのプランニングとマネジメントの強化

都市公園をより柔軟に使いこなすことで、都市の様々な課題の解決にその多機能性を最大限発揮できるよう、以下の施策を実施

(1) 都市経営の視点からの都市公園マネジメントの推進

まちの魅力、価値の向上に向けた都市経営の視点からの都市公園のポテンシャルを発揮するための計画に基づくマネジメントの推進

(施策例) ・都市域全体の都市公園の総合的なマネジメント計画や個別公園毎のマネジメント計画の策定推進

(2) 地域の特性やニーズに応じた都市公園の整備の推進

子育てなど地域ニーズに応じた都市公園の整備、施設の設置を促進することで、都市公園を活性化、まちを活性化

(施策例) ・地域ニーズに応じた都市公園に設置できる施設等の拡充

(3) 都市公園の特性に応じた多様な主体による公園運営の推進

地域住民による主体的な公園運営や、民間事業者との連携等による収益の向上と、都市公園の管理の質の向上への収益の充同等を促進

(施策例) ・市民主体の団体や民間事業者による自律的な公園運営を可能とする制度の充実

3. 民との効果的な連携のための仕組みの充実

1. 2. を行政、市民、民間事業者等がそれぞれの役割に応じて推進するため、効果的な連携の体制や仕組み等の充実を図る

(1) 緑とオープンスペースの利活用を活性化するための体制の構築

緑とオープンスペースの利活用の活性化を促進する多様な主体との連携体制の構築

(施策例)
・地域のニーズに応じた利活用ルール等を様々なステークホルダー等と合意しながら決めていく協議会の設置

(2) 新たなステージを支える人材の育成、活用

都市のため、市民のための発想で施策を推進できる人材を育て、サポートする仕組みを設置

(施策例)
・管理運営の質を向上させるための情報交換会等の定期的開催
・民間資格の活用、専門人材の派遣等の検討
・行政と市民をつなぐコーディネーター、ファシリテーターの育成

(3) 都市公園等の品質を確保、評価する仕組み

維持管理の技術的基準の明確化、都市公園の管理の質を客観的に評価する仕組みの創設

(施策例)
・都市公園や広場空間の管理の質を客観的に評価する仕組みの創設

出典：都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会 最終とりまとめ (概要)

(国土交通省 2016年)

4. 国の公園施策の動向

○都市公園法改正（2017年6月施行）

新しいステージで重視すべき3つの観点

- ① **ストック効果をより高める**
今ある公園をどう活かすかという視点で、都市公園を活性化
- ② **民間との連携を加速する**
民間のビジネスチャンスの拡大と都市公園の魅力向上の両立
- ③ **都市公園を一層柔軟に使いこなす**
画一的な整備・管理をやめ、柔軟な発想で公園の個性を引き出す

新しい制度

- ・ 公募設置管理制度（Park-PFI）の創設
- ・ 保育所等社会福祉施設の占用物件への追加（特区の全国措置化）
- ・ 公園の活性化に関する協議会の設置 等

○新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（2020年8月）

【論点3】「オープンスペースの今後のあり方と新しい政策の方向性」

<新型コロナ危機を契機に生じた変化>

- 自宅で過ごす時間が増え、身近な自然資源として、**運動不足の解消・ストレス緩和**の効果が得られる場として、**グリーンインフラとしての緑や、オープンスペースの重要性**が再認識。
- 緑とオープンスペースは、テレワーカーの作業場所、フィットネスの場所等**利用形態が多様化**。災害等の非常時に対応するためのバッファー機能として、**都市の冗長性を確保**する観点からも役割が増大。
- オープンスペースを有効に活用するため、エリアマネジメントの中心的な存在として、**信頼できる中間支援組織の存在、効果的に活用するための人材育成**の必要性が高まっている。

<今後の方向性>

- **グリーンインフラとしての効果**を戦略的に高めていくことが必要。
- **ウォークアブルな空間とオープンスペースを組み合わせ**てネットワークを形成することが重要。
- 街路空間、公園・緑地、水辺空間、都市農地、民間空地など、**まちに存在する様々な緑とオープンスペースについて、テレワーク、テイクアウト販売への活用**といった地域の多様なニーズに応じて**柔軟に活用**することが必要。
- 災害・感染症等のリスクに対応するためにも、**いざというときに利用できる緑とオープンスペースの整備**が重要。
- イベントだけでなく、比較的長期にわたる日常的な活用（例：オープンテラスの設置）など、**柔軟かつ多様なオープンスペースの活用の試行、これを支える人材育成、ノウハウの展開**等が必要。

出典：新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（論点整理） 概要（国土交通省 2020年）

4. 国の公園施策の動向

○都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言 (2022年10月)

都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言(概要)

都市公園制度誕生150年目のパラダイムシフト ～人中心のまちづくり時代における都市公園の意義・役割～

明治6(1873)年	太政官布達 都市公園制度の始まり 名勝・旧跡等の群衆遊覧の地を市民の憩いの場として国民に開放 その後、震災時の避難地・防災拠点等として公園整備が進展	<各時代の社会背景>	都市の近代化、震災復興・戦災復興の都市計画
昭和30年代～	都市公園法制定(S31)、都市公園等整備緊急措置法制定(S47)	経済成長、人口増加等を背景に、緑とオープンスペースの量の整備を急ぐステージ	高度経済成長、人口の急増、都市の拡大と過密化
平成28(2016)年	「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」最終報告書	緑とオープンスペースが持つ多機能性を都市のため、地域のため、市民のために最大限引き出すことを重視する「新たなステージ」へ	人口減少・高齢化、規制緩和、地方分権、地方創生、国際的な都市間競争、インフラ老朽化と技術職員の減少

ポストコロナの時代における人中心のまちづくりへの機運の高まり	「居心地が良く歩きたくなる」まちづくりの取組の広がり ～交流・滞在空間、開かれた心地よい空間の創出～	地球環境問題の新たな潮流 ～人と自然が共生する持続可能でレジリエントな都市の形成～	人口減少、少子高齢化への対応 ～全てのこどもの健やかな成長を目指すことも政策の推進～
	新型コロナウイルスの感染拡大を経たニューノーマル社会への対応 ～人中心・市民目線のまちづくり、ニーズに迅速に対応する機動的なまちづくり～	市民・事業者の意識変化 ～参画意識の高まり、官民連携による社会課題解決と新たな市場創造・成長～	デジタル・トランスフォーメーションの進展 ～既存の仕組みの変革、新たな価値創出～

新たな時代における都市公園の意義・役割
～公園本来の役割、多機能性・多様な可能性の再認識～

個人と社会のWell-beingの向上に向け、地域の課題や公園の特性に応じ、ポテンシャルを更に発揮すべき

持続可能な都市を支える グリーンインフラ	心豊かな生活を支える サードプレイス	人と人のリアルな交流、 イノベーションを生み出す場	社会課題解決に向けた 活動実践の場	機動的な まちづくりの核
-------------------------	-----------------------	------------------------------	----------------------	-----------------

都市公園新時代 ～公園が活きる、人がつながる、まちが変わる～

人中心のまちづくりの中でポテンシャルを最大限発揮するため、パートナーシップの公園マネジメントで多様な利活用ニーズに応え、地域の価値を高め続ける「使われ活きる公園」を目指す

「使われ活きる公園」の実現に必要な 3つの変革	都市アセットとしての利活用 まちの資産とする 公園のストックを地域の資産と捉え、能動的・機動的取組で地域の価値やシビックプライドを高揚する	画一からの脱却 個性を活かす 公園の特性に応じたルールをオーダーメイドで作り、公園の楽しみ方を広げ、新たな文化を創造する	多様なステークホルダーの包摂 共に育て共に創る パートナーシップの公園マネジメントを実践し、共有資産である公園を核にまちづくりへの関心を高める
----------------------------	---	--	---

◆都市公園新時代に向けた重点戦略～3つの戦略と7つの取組～

<p>重点戦略【1】 新たな価値創出や社会課題解決に向けたまちづくりの 場 とする</p> <p>公園が新たな価値創出や社会課題解決の場となるよう、NbS(自然を基盤とした解決策)の視点からグリーンインフラとしての保全・利活用に計画的に取り組むとともに、市民、事業者等による利活用の状況を管理運営や再整備にきめ細かく反映し、居心地が良く誰もが快適に過ごせる空間づくりを推進。</p> <p>①グリーンインフラとしての保全・利活用 ○グリーンインフラを導入した緑の基本計画(公園の整備・管理方針を含む)の策定 ○緑の基本計画等に基づく自然環境の有する多機能性の戦略的な保全・利活用 ○緑の充実や再生可能エネルギーの活用等による公園のカーボンニュートラル化</p> <p>②居心地が良く、誰もが安全・安心で、快適に過ごせる空間づくり ○公園の利活用状況の点検と点検結果を踏まえた公園再生 ○公園利用者の安全・安心の確保(防災・減災、バリアフリー、老朽化対策、防犯、暑熱対策等) ○政策間連携による社会課題対応型の機能向上(健康、福祉、子育て、教育、地域経済等)</p>	<p>⑦公園DXの推進</p> <p>デジタル技術とデータの利活用により、新たな時代の都市公園の実現を促進。</p> <p>施策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公園に関わるデータのデジタル化、オープンデータ化 ○データを活用したEBPM ○DXによる新たなサービスを生み出す場としての活用 ○デジタル技術、データを活用した、公園の利活用・管理運営の変革(リアルタイムデータを活用したサービス等)
<p>重点戦略【2】 しなやかに使いこなす 仕組み をととのえる</p> <p>公園は誰でも自由に使える空間という基本的な認識の下、多様化する利活用ニーズに応え、さらには公園が機動的なまちづくりの核となるよう、公園の特性等に応じた利用ルールの弾力化、新たな可能性を探る実験的な利活用の推進など、公園を使いこなす仕組みを整理。</p> <p>③利用ルールの弾力化 ○画一的な利用ルールの見直しの促進(公園条例の方向性や選択肢の提示等) ○利用者等の合意形成による公園毎のローカルルールづくり(協議会の活性化)</p> <p>④社会実験の場としての利活用 ○公園での社会実験の事例・成果の共有(公園条例の方向性や選択肢の提示等) ○多様な主体による幅広いテーマの社会実験を円滑に進めるための仕組みづくり(パークラボ)</p>	<p>重点戦略【3】 管理運営の 担い手 を広げ・つなぎ・育てる</p> <p>公園管理者としての体制確保・技術継承、地域との連携等に留意しつつ、多様な主体の参画を促進するとともに、管理運営を安定的に行えるよう自主性・自律性の向上を図り、ステークホルダーとのパートナーシップにより公園の価値を共創。</p> <p>⑤担い手の拡大と共創 ○公園の特性等に応じた管理運営体制や役割分担の多様化 ○利活用をミッションとする体制構築(中間支援組織との連携等)</p> <p>⑥自主性・自律性の向上 ○担い手の財政的な自立性の確保(計画的な収益事業実施、広告設置等) ○民間の管理運営への参画を更に促進する仕組みづくり</p>

出典：都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言(概要)

(国土交通省 2022年)

5. これまでの都立公園の取組

5. これまでの都立公園の取組

東京都は、都民・NPO・企業と連携しながら都民の視点にたって公園を整備・管理し、わかりやすい目標設定、多角的な視点による事業展開、PDCAサイクルに基づく継続的な改善を行うパークマネジメントを実施してきた。

パークマネジメントの実施にあたっては、平成16年8月に都立公園全体の整備・管理運営の指針となるパークマネジメントマスタープランを策定し、公園づくりの基本理念と目標、その実現のためのプロジェクトを提示し、その後、平成27年3月に改訂している。また、マスタープランに基づく公園別マネジメントプランを策定し、各公園の特性を踏まえながら取組を進めている。

○パークマネジメントマスタープランの基本理念と実現のためのプロジェクト

都市の魅力を高める公園

国際的な観光拠点となる公園づくりプロジェクト
庭園・植物園・動物園での「おもてなし」プロジェクト
公園の多機能利用と民間の活力導入促進プロジェクト

高度防災都市を支える公園

防災公園機能強化プロジェクト
都立公園の安全・快適プロジェクト

生命を育む環境を次世代に継承する公園

水と緑の骨格軸形成プロジェクト
都立公園の生物多様性向上プロジェクト
自然とのふれあいプロジェクト

豊かな生活の核となる公園

都立公園の魅力向上プロジェクト
パートナーシップ推進プロジェクト

5. これまでの都立公園の取組

○パークマネジメントマスタープランに基づく主な取組のレビュー

基本理念1

都市の魅力を高める公園

1. 国際的な観光拠点となる公園づくりプロジェクト

上野恩賜公園の再生整備を進め、令和2年度、JR上野駅公園口と入口広場が一体的につながる整備を完了した。

安全な歩行者動線による回遊性の向上や、動物園正門からの見通しの確保など良好な景観形成を図った。

- 指標の一例 保全する歴史的公園数
目標：3公園 ▶実績：2公園

2. 庭園・植物園・動物園での「おもてなし」プロジェクト

浜離宮恩賜庭園においては、鷹のお茶屋の復元その他、茶道見学等の様々なイベントを実施した。

コロナ禍以前は年間62万人が来園し、外国人観光客も増加するなど、国内外の多くの人々をもてなした。

- 指標の一例 おもてなしプログラムの実施庭園・植物園・動物園数
目標：9庭園・2植物園・4動物園 ▶実績：9庭園・2植物園・4動物園

3. 民間の活力導入促進プロジェクト

駒沢オリンピック公園等で官民連携によるレストラン等を設置した。

利用者ニーズに合ったメニューや多様なイベントを通じて、公園に新たなにぎわいが創出された。

- 指標の一例 民活事業の実施状況
目標：効果的に実施
▶実績：4公園で施設設置、17公園で規制緩和イベント実施

基本理念2

高度防災都市を支える公園

4. 防災公園機能強化プロジェクト

災害時に使用する非常用発電設備、夜間照明、情報提供のためのデジタルサイネージ等の整備とともに、各公園で地域や消防署と連携した防災訓練を実施した。

施設整備や訓練を通じて非常時に備えた体制の構築が進み、避難場所としての機能が向上した。

- 指標の一例 機能強化充実事業の実施防災公園数
目標：63公園 ▶実績：59公園で事業着手（27公園で完了）

5. 都立公園の安全・快適プロジェクト

安全で快適な利用のため、死角となりうる場所の植栽の重点的な刈込による見通しの維持や、利用者の声を反映したトイレの清掃等、各公園の状況に応じた管理、改修を実施した。

来園者からの「園内の安全・安心感」の評価は向上するとともに、コロナ禍では密になりにくい身近な憩いの場としての効果を発揮した。

- 指標の一例 「園内の安全・安心感」の満足度（5段階）
目標：平成25年実績（4.4）以上 ▶実績：4.6

※各プロジェクトの目標年次は令和6年度（2は令和2年度、4は令和7年度）
実績は令和3年度末時点

5. これまでの都立公園の取組

○パークマネジメントマスタープランに基づく主な取組のレビュー

基本理念3 生命を育む環境を次世代に継承する公園

6. 水と緑の骨格軸形成プロジェクト

狭山丘陵に位置する中藤公園や、玉川上水に隣接する高井戸公園を新たに開園し、既設公園は30公園で更なる拡張を実施した。

緑の拠点を創出するとともに、丘陵地の保全や玉川上水に連なる緑の整備により、厚みとつながりのある緑の充実に寄与した。

- 指標の一例 新規開園面積
目標：170ha ▶実績：約48ha

7. 都立公園の生物多様性向上プロジェクト

生物生育・生息空間の整備・管理を行う「多様な生物が生息する都立公園づくり事業」や、池のかいぼりを実施した。

外来種の駆除や水質改善による井の頭池での在来水草の野生復活等、生育・生息地保全の取組が進み、生物多様性の向上に寄与した。

- 指標の一例 生物生息・生育空間としての環境整備実施公園数
目標：31公園 ▶実績：21公園

8. 自然とのふれあいプロジェクト

各公園でボランティア等との協働による自然観察会などの自然体験プログラムを実施し、令和3年度は38公園で約35,000人が参加した。

身近な自然とのふれあいの場の提供等により、来園者から「緑などの自然の豊かさ」について高い評価を得た。

- 指標の一例 「緑などの自然の豊かさ」の満足度（5段階）
目標：平成25年実績（4.7）以上 ▶実績：4.7

基本理念4 豊かな生活の核となる公園

9. 都立公園の魅力向上プロジェクト

令和3年度は、スポーツや子供向けイベント等に48公園で約30,000人が参加した。こうした各種イベントの実施など、魅力を高める取組を推進した。

「総合満足度」は来園者から高い評価を得ており、多くの来園者にとって魅力ある空間となった。

- 指標の一例 公園の総合満足度（5段階）
目標：平成25年実績（4.6）以上 ▶実績：4.7

10. パートナーシップ推進プロジェクト

「都立公園サポーター基金」への寄付を受け、展示やイベント等の様々な事業を実施した。

寄付とともに管理運営における協働など、様々な主体と協働した公園運営が根付いた。

- 指標の一例 都民からの寄付受入の実施状況
目標：効果的に実施
▶実績：「都立公園サポーター基金」に約5,000万円の寄付